

2010年屋久島で見つからなかったクロボシセセリとデイゴヒメコバチ

金井 賢一*

Suastus gremius (Lepidoptera, HesperIIDae) and *Quadrastichus erythrinae* (Hymenoptera, Eulophidae)
not found on the Yakushima Island in 2010

Kenichi KANAI

1 はじめに

2010年は県立博物館が主催するサイエンス・パートナーシップ・プロジェクト事業で屋久島を訪問する機会に恵まれた。そこでクロボシセセリとデイゴヒメコバチについて、分布調査をしたところ発見できなかったの、ネガティブデータとして記録する。

日本産のクロボシセセリ *Suastus gremius* は原名亜種 *gremius* に含まれ、本亜種は国外では台湾、海南島、中国広東省、タイ、ミャンマー、インドなどに産する。他にスリランカには別亜種 *subriseus* が、小スンダ列島には別亜種 *chilon* が産するが、フィリピン、マレー半島からボルネオ、ジャワ、スマトラには分布していない（藤岡，1997）。食草として多くのヤシ類が利用されており、奄美大島ではビロウ *Livistona chinensis*、カナリーヤシ *Phoenix canariensis*、シンノウヤシ *Phoenix humilis* var. *lourerii*、カンノンチク *Rhapis excelsa*、クロツグ *Arenga engleri*、トックリヤシ *Hyophorbe lagenicaulis* が記録されている（金井，2006）。日本国内では1973年に石垣島で初めて採集され、その後宮古諸島、沖縄本島と分布を拡大した。鹿児島県では1984年に沖永良部島にて初めて発見され、その後徳之島で1985年に侵入が確認された（田中，1988，田中，1989）。奄美大島は少し遅れて1998年10月に龍郷町赤尾木にて1♂の記録が初めてのようである（富川，2006）。2006年には鹿児島県本土の指宿市山川町にあるフラワーパークで2♂が採集され（後藤，2006），2009年には大隅半島：南大隅町佐多伊座敷にて、卵や幼虫、巣が確認された（中峯，2010）。しかし屋久島は2007年の調査では、見つからない（中峯，2007）。

デイゴヒメコバチ *Quadrastichus erythrinae* は2004年に命名されたヒメコバチ科の小さなハチである。体長はオスが1.2mm，メスが1.4mm程度である。本種はマメ科デイゴ属 *Erythrina* の枝や葉柄、葉にゴール

（虫こぶ）を形成し、幼虫や蛹がその中で成長し、時には木を枯らしてしまうことが知られている（Kim et al., 2004）。日本では2005年5月に沖縄県石垣島で初めてデイゴ *E. variegata* でゴールが発見され、その後の調査で沖縄島、久米島、宮古島、西表島、波照間島など23市町村78カ所でデイゴのゴールが確認された（Uechi et al., 2007）。2007年には奄美大島および徳之島でも確認され、喜界島なども分布している（金井他，2008）。デイゴ属にはカイコウズ *E. pulcherrima*、サンゴシトウ *E. × bidwillii* といった屋久島や鹿児島県本土でも栽培されている樹木があり、これらも食草となることが確認されている。

（注）カイコウズは世界有用植物事典（堀田満編）によるマルバデイゴ *E. pulcherrima* を指すようになっており、ホソバデイゴ（アメリカデイゴ）*E. crista-galli* とは別種になっているが、筆者はその区別を行わずに観察していたので、今回は全てカイコウズとして処理する。



図1 カイコウズにできたゴール
（2011年1月3日大和村恩勝：奄美大島）

2 方法

(1) 調査期間

2010年8月20日～8月21日まで。

* 鹿児島県立博物館 〒892-0853 鹿児島県鹿児島市城山町1-1

(2) 調査方法

県道77号線（宮之浦～栗尾間）を8月20日に、県道78号線（宮之浦～永田間）を8月21日に走りながら、ヤシ類やデイゴ属を発見した際に立ち寄り確認した。

ヤシ類は葉に卵、幼虫の作る巣や蛹室の有無を調べた。手の届く枝はたぐり寄せて確認したが、高所の枝は下から見上げて不審なふくらみや食痕がないか確認した。シンノウヤシ、ビロウ、クロツグなどのヤシは本数とおおよその樹高を記録した。カンノンチクのように多くの枝が密集する場合は、面積を記録した。

カイコウズやサンゴシトウは葉を見てゴールがないかどうか調べた。手の届かない高所の枝や葉は、下から見上げて不審な状況がないか確認した。

(3) 調査地点

調査を行ったヤシ類やデイゴ属があった地点を、図2と図3に示した。詳細な地名は結果の項目で示す。

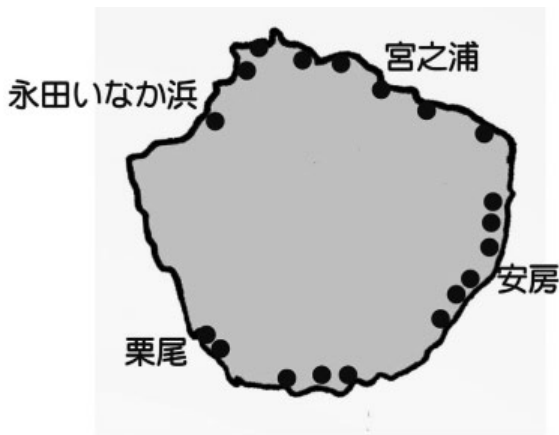


図2 ヤシ類を確認した地点

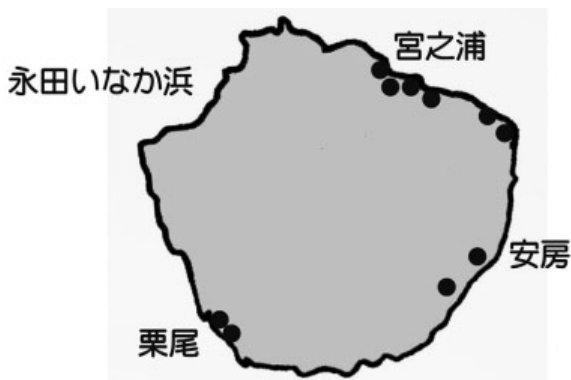


図3 デイゴ属を確認した地点

3 結果

以下にヤシ類、およびデイゴ属を確認した地名、種類、高さや面積、本数などを示す。

(ヤシ類)

県道77号線

宮之浦小学校：シンノウヤシ，2m 3本

ビロウ，3m 1本

新城ノ川橋付近：ビロウ，3m 2本

長峰：シンノウヤシ，2m 11本

船行：シンノウヤシ，1.5m 6本

安房：シンノウヤシ，2m 2本

カナリーヤシ，3m 2本+ 1.5m 2本

平野：シンノウヤシ，2m 24本+ 3m 8本

焼酎川：カンノンチク，2m × 1m

高平：カナリーヤシ，3m以上 18本+ 1.5m 2本

カンノンチク，1m × 20m

岳南中学校：ビロウ，2m 2本

シンノウヤシ 2m 8本+ 1m 5本

八幡小学校：ビロウ，2m 3本

カンノンチク，1m × 2m

湯泊：シンノウヤシ，2m 6本

栗尾入り口：カナリーヤシ，2m 1本

シンノウヤシ 2m 4本

ビロウ 4m × 3本

栗尾小学校：シンノウヤシ，2m 2本

ビロウ，1m 2本

県道78号線

泊川：ビロウ，4m 26本

志戸子：シンノウヤシ，2m 9本

一湊：ビロウ，4m 22本

白川：シンノウヤシ，2m 14本

クロツグ，2m 1本

永田いなか浜：ビロウ 3m 3本

(デイゴ属)

県道77号線

楠川入り口：カイコウズ，3m 1本

楠川：カイコウズ，3m 2本

新城ノ川橋：カイコウズ，6m 1本

屋久島空港：カイコウズ，3m 1本

早崎：カイコウズ，2m 1本

春牧：カイコウズ，2m 3本+ 1m 1本

高平：カイコウズ，2m 1本

栗尾入り口：カイコウズ，2m 3本

サンゴシトウ，4m 1本

栗尾小学校：カイコウズ，6m 1本

県道78号線

なし

4 考察

(1) クロボシセセリ

奄美大島から薩摩半島南部へと分布が拡大してからおよそ5年経過したが、間にある屋久島ではまだ分布が確認されない。これは薩摩半島への移動が自力の飛翔ではなく、人の手によって運ばれた可能性を大きくするのであろう。ただし、気象条件によってはジェット気流が屋久島を經由しないで薩摩半島に達することも解析されており（福田他, 2003）、自力飛翔による分布拡大を完全に否定できるわけではない。

(2) デイゴヒメコバチ

2005年に沖縄で発見されてから、奄美大島で発見される2007年まで約2年かかっている（徳之島は2006年の可能性が示唆されている：金井他, 2008）。本種は非常に小さな身体で、自力飛行と言うよりは空中を風に乗って漂うプランクトンのように移動していると考えられる。一度侵入すると早期にゴールを焼却するなどの対応を取らなければならない。奄美大島では侵入後3年で公園のデイゴが枯死していた。図4と図5には公園内に植栽されていた14本のデイゴの内、枯死によって5本切り倒された状況を示す。その意味で屋久島や薩摩半島のデイゴ属にいつ侵入するか、注意を要する。



図4 奄美市名瀬有屋の輪内公園のデイゴ
(2010年7月13日撮影)



図5 図4と同所のデイゴ
(2011年1月4日撮影)

5 文献

- 藤岡知夫 (1997) クロボシセセリ属. 日本産蝶類及び世界近縁種大図鑑I解説編 :133-134. 芸術出版社, 東京.
- 福田晴夫, 中峯浩司, 花宮廣務 (2003) ツمامラサキマダラが奄美諸島から薩摩半島に飛来した. 月刊むし 388:17-21.
- 後藤和雄 (2006) 薩摩半島でクロボシセセリを採集. 蝶研フィールド (246) :29.
- 金井賢一 (2006) 奄美諸島における2005年クロボシセセリの分布記録. *Satsuma*134:37-43
- 金井賢一, 松比良邦彦, 上地奈美, 湯川淳一 (2008) 奄美群島へのデイゴヒメコバチ (ハチ目ヒメコバチ科) の侵入. 日本応用動物昆虫学会誌 52 (3) :151-154
- Kim, I. K., G. Delvare and J. La Salle (2004) *J. Hym. Res.* 13:243-249.
- 中峯浩司 (2007) 屋久島と口永良部島のクロボシセセリ調査 (2007年3月). *Satsuma*136:90-91.
- 中峯浩司 (2010) 大隅半島南部でクロボシセセリが発生. *Satsuma*144:146.
- 田中 洋 (1988) 最近鹿児島県に侵入したチョウたち. 昆虫と自然, 33 (12) :4-7.
- 田中洋 (1989) クロボシセセリの分布拡大. 日本の生物, 3 (10) :69-75.
- 富川賢一郎 (2006) 奄美群島で採集された迷蝶他. *Satsuma*134:66-69.

